

1 学校運営の中期目標

現状と課題

- 4クラス117名の幼児が在籍し、さまざまな遊びを友達と一緒に楽しんでいる。しかし、気の合う友達や先生など特定の人とのかかわりが多く、かかわりの幅が広がりにくい子どももいることから、25年度より、異年齢交流保育に取り組み、成果をあげている。支援を要する幼児も多数在籍する現状から、交流計画や取り組み方法を再構築する必要がある。
- さまざまな人とかかわりを、さらに広げていく取組を充実させる。
- 防災・安全教育の推進をさらに進め、子どもも大人も生命を守る意識の向上を図る。
- 体を動かす経験が、幼稚園内外で少なくなっている。自分で進んで体を動かし、楽しんで遊べる環境を整えていくことで、体力の向上、健康につながるよう充実させる。
- 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を育むために、発達段階や季節に応じた遊びを充実させる。

中期目標

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年95%以上にする。
- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の違いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。
- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年95%以上にする。
- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年80%以上にする。
- 平成29年度～令和2年度の年度末保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を、毎年90%以上にする。

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

幼稚園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を85%以上にする。

【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

幼稚園の年度目標

- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を95%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を80%以上にする。
- 今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を90%以上にする。

3 本年度の自己評価結果の総括

大阪市立西野田幼稚園 平成 31 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</p> <p>幼稚園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 95%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域の人々や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」「年度当初より友達の思いに気づき、考えられるようになった」「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 85%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策番号 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <p>安全に気をつけて行動する力をはぐくむ指導に取り組む。</p>	A
<p>指標：交通安全指導、防犯指導の年間計画を作成し、計画通りに実施する。</p> <p>安全に関する指導の年間計画を立て、実施する。</p> <p>年 3 回以上、地域や保護者と連携した安全に関する指導を行う。</p> <p>月 1 回、保護者と協力して登降園指導を行う。</p> <p>年 3 回、保護者に取組内容の情報を発信する。</p>	
<p>取組内容②【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>園児の交流活動を計画的に行い、様々な人々とかかわる力をはぐくめるよう指導する。</p>	A
<p>指標：「なかよし集会」「なかよしタイム」「すくすくタイム」をそれぞれ月 1 回以上行う。</p>	
<p>取組内容③【施策 2、道徳心・社会性の育成】</p> <p>地域の人々や保護者と連携して教育をすすめる。</p>	B
<p>指標：学期に 1 回以上、地域の人々や小学生との交流活動を実施し、保護者に取組内容の情報を発信する。</p> <p>学期に 1 回以上、人権教育につながる親子の活動を実施する。</p>	
年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析	
<p>取組内容①【施策番号 1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに交通安全指導・防犯指導の計画を立てた。（実施内容は、別紙添付資料①に記載） ・5月の避難訓練までに各クラスごとに区民センター 4 階に階段を使って登る練習をした。4 歳 	

児は初めての経験だったが、真剣に取り組む姿があり、5歳児も目標を決めて取り組む姿があった。昨年度の反省から年度の早い時期である5月に保護者への引き渡し訓練を行い、保護者と子どもに引き渡しの方法を知らせることができた。6月の火災の避難訓練では消防署の指導のもと、職員による通報訓練・消火訓練も行った。子どもたちは消防車を見せてもらったり、消防士さんの話を聞いたりし、火災や災害に対する意識が高まった。9月には大阪880万人訓練に合わせ、津波の引き渡し訓練を行った。メールだけでなく、災害伝言ダイヤルもテスト利用し、保護者に利用方法を周知した。10月には不審者に対する避難訓練を行った。昨年からの反省から避難場所について職員で話し合い、プールサイドに避難した。11月には開始時刻を知らせずに火災の避難訓練を行った。これまでの積み重ねから、落ち着いて避難する姿があった。

- ・今年度は避難訓練の度に保護者にメールを配信をし、災害時に必ず全員にメール連絡ができるよう、受信状況の確認を行っている。
- ・1学期始業式で、職員によるパペットを使った交通安全に関する指導を行った。登園時に気を付けてほしいことを5歳児親子に知らせることができた。また、1学期終業式では福島警察署交通課の警察官から子ども向けと保護者向けに交通安全の話をしてもらった。交通ルールや自転車の乗り方などについて、啓発することができた。2学期始業式では区役所の出前講座を利用し、子ども向けと保護者向けに防災教室を行った。子どもたちはマスコットのフッピーと一緒にクイズで地震や避難について学び、保護者は福島区の災害に関する想定や備蓄、普段から備えておくことについて学ぶことができた。
- ・1学期末に、園の安全に関する取組について、写真付の掲示物を作って貼り出したり、終業式の後にスライドで写真を映したりし、園での様子を保護者に知らせ、家庭でも防災意識を高めてもらえるようにした。
- ・10月に4歳児が消防署見学に行き、DVDや訓練の様子を見せてもらい、火事の恐ろしさや火遊びの危険性を教わった。
- ・毎月1回、保護者と協力して登降園指導を行うことができた。毎回、よかった点・気を付けてほしい点を手紙にまとめて保護者啓発することで、ルールを知らせ、安全な登降園ができるようになってきている。
- ・1学期末の保護者アンケートにおいて「避難訓練や安全指導などを通して、災害時の行動や安全な生活への意識を高めている」という項目での高評価の回答割合は97%であった。目標は達成しているので進捗状況をAとした。

取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・なかよし集会（全園児での活動）、すくすくタイム（異年齢での活動）、なかよしタイム（同年齢での活動）は、それぞれ月1回以上実施できた。（内容は別紙添付資料②に記載）
- ・全園児で、体操やふれあい遊びなどの集会活動を行い、みんなで体を動かしたり、遊んだりする楽しさを味わった。
- ・入園、進級当初よりペアクラスを決め、異年齢での関わりの機会をもった。5歳児が4歳児の身支度や発育測定などの手伝いをしたり、一緒に戸外遊びをしたりするなど、生活や遊びの中で関わられるようにした。4歳児は5歳児の優しさに触れることで、親しみの気持ちをもったり、5歳児は4歳児にどう接したらいいか考え、自分なりに優しく接したりする姿が見られた。園外保育に向けては、担任同士で子どもの実態を話し合い、ペア組みを行った。事前に交流する中でペアを調節し、交流活動を積み重ねたことで安定して園外で活動する姿が見られた。10月末頃より、異年齢のペアクラスを交代し、年間を通してどのクラスの友達とも交流することができるようにした。11月には5歳児が保育室内でのお店ごっこやコマ回し、ダンスなどに4歳児を招待し、一緒に遊ぶ機会をもった。4歳児は5歳児の考えた遊びに驚いたり憧れの気持ちを持ち、5歳児はどうすれば4歳児が楽しめるか考えながら遊ぶ姿が見られ、互いにとって充実した時間となった。

- ・各学年で担任同士が連携をとりながら、その時期に経験させたい遊びや活動を2クラス一緒にすることで、それぞれのクラスの子どもの育ちにつながるようにした。2学期には、運動会に向けて、学年や全園児での活動や集会を積み重ねる中で、4歳児は友達と一緒に体を動かして遊ぶこと、5歳児は友達からの刺激を受けながら、力を合わせ協力する充実感を味わうことができた。
- ・1学期末アンケートでは「幼稚園の生活や遊びの中で、いろいろな友達とかかわる機会が多くあった」という項目で高評価の回答割合は100%、「年度当初よりいろいろな友達とかかわって遊ぶようになった」という項目で高評価の回答割合は96%であった。目標は達成しているので、進捗状況をAとした。

取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・6月11日には地域のだんじりの方に祭りの鳴り物の演奏や踊りを見せていただいた。自分の住む地域の方が大切にしてきた伝統文化に興味をもち、地域の方に優しく教えてもらいながら和太鼓や鐘などを鳴らす体験ができた。
- ・6月18日には福島区女性会の方に盆踊りを教えていただき、幼稚園の夏祭りで親子一緒に盆踊りをする活動につながった。女性会の方と楽しく踊ったことで、地域の夏祭りで地域の方と一緒に踊るのを楽しみにする姿があった。
- ・今年度は5歳児と吉野小学校1年生が年間を通して交流することを吉野小学校の教員と企画し、1学期（6月24・25日）は1年生に幼稚園に来てもらい、グループをつくったり、園庭で一緒に遊んだりした。1年生が幼稚園の環境に心を和ませ楽しむ姿を見せており、5歳児は始めはとまどう姿もあったが、1年生と一緒に遊ぶことを楽しむことができた。2学期（10月28日）は、小学校に行き、校庭で一緒に遊んだ。小学校の固定遊具を使ったり、広い校庭で存分に走ったり、ボールやフープで遊んだりすることを1年生と一緒に楽しみ、小学校がどんなところか知り、楽しいところと感ずることができた。交流の事前と事後に小学校の教員と子どもの姿について話し合うこともでき、子ども理解を深めることができた。
- ・7月16日には、5歳児が吉野小学校6年生とプール交流をし、小学校の施設を見たり、6年生に優しく関わってもらい安心して遊んだりする中で、憧れの気持ちをもつことができた。
- ・毎月、隣接する江成公園の清掃を親子で行い、自分たちが普段使っている公共の施設をきれいにすることで、大切に使う姿勢を育んでいる。
- ・おひさま広場（未就園児の園庭開放）では、未就園児の子どもが園庭で遊んだり、保護者同士が関わりを広げたりできるようにしてきた。在園児も一緒に遊んだり、ダンスやふれあい遊びをしたりし、受付や見送りなどに関わる機会をもった。暑い時期には一緒に手遊びをしたり、絵本を見たりして過ごし、楽しむことができた。5歳児は昨年度の経験から意欲的に関わる姿が見られた。4歳児は小さい子どもと関わることにとまどいも見られたが、やさしく関わろうとする姿も見られた。
- ・敬老の集い（9月3日）では祖父母を幼稚園に招待し、昔遊びなど一緒に楽しむことができた。自分の祖父母だけではなく、友達の祖父母と関わる機会となった。
- ・野田中学校（10月25日、11月5日12日）、下福島中学校（11月14日15日）の生徒が職業体験で来園し、一緒にゲームをしたり、鬼ごっこなど体を動かして遊んだりした。中学生に優しく接してもらおうことを喜び、楽しい経験となった。
- ・地域の方や小学生などの交流について降園時に保護者に報告するとともに、終業式に写真のスライドを見せ説明したことで、様々な人と関わり、楽しんでいる姿が保護者に伝わった。
- ・人権については、学期末に各保育室で、クラスの実態に応じた絵本を読み、読んだ後に感じた気持ちを保護者もともに伝え合う場をもった。4歳児は『くれよんのくろくん』を通して一人一人の違いや個性を大切にする気持ちを感じたり『きみはほんとうにステキだね』を通して思い込みではなく友達の優しさを感じ合うことの大切さに気付いたりすることができた。5歳児は『ともだちや』を通して本当の友達とはどういうものかを考える機会をもったり、『ともだち

くるかな』を通して嫌なことも嬉しいことも心があるからこそだという心の大切さについて考えたりする機会となった。絵本を通すことにより、視覚的に分かりやすく、話を共有しやすかったようだ。

- ・1学期末アンケートでは「幼稚園にかかわりの深い園外の人々（地域や小学生）との交流活動に興味をもつようになった」という項目で高評価の回答割合は88%、「年度当初より自分の思いを友達に伝えられるようになった」という項目で高評価の回答割合は94%、「年度当初より友達の思いに気付き、考えられるようになった」という項目で高評価の回答割合は95%、「保護者の方が、人権に対して考える機会が多くあった」という項目で高評価の回答割合は96%であった。目標は達成しなかったので、進捗状況をBとした。

次学期への改善点

取組内容①【施策番号1、安全で安心できる学校、教育環境の実現】

- ・今年度初めての避難訓練が引き渡し訓練となったので、来年度は4月に子どもたちだけで園庭まで逃げる避難訓練を行うように計画したい。避難訓練の時期や内容を子どもの実態に合わせて工夫して行い、防災意識を高め、避難方法が身に付くようにしていきたい。
- ・警察や区役所などの方に指導をお願いする時は、事前に子どもに伝えたい内容などをしっかりと打ち合わせるようにする。
- ・今後も様々な状況を想定して避難場所を考えておきたい。また日頃から廊下に物を置かないなど、避難経路を意識し、確認しておく。

取組内容②【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・引き続き、教職員で連携をとりながら、子どもの実態に合わせた交流活動や内容を工夫し、子どもたちが友達との関わりを楽しめるようにしていきたい。
- ・ペア活動、ふれあい遊びなど、園外保育前の交流だけでなく、11月に行ったすくすくタイムのように、日頃の遊びの中で交流する機会を定期的に増やしていきたい。

取組内容③【施策2、道徳心・社会性の育成】

- ・引き続き、他校種や地域の方と交流する際には、打ち合わせをしてよりよい育ちにつながるようにしていくとともに、保護者に交流内容や、育ったこと、これから育ちにつながることを具体的に丁寧伝えていきたい。
- ・子どもたちが互いの違いやよさを認め合ったり、命を大切にしたりする気持ちを、日々の保育の中で育みながら、保護者も一緒に改めて振り返る機会を大切にしたい。絵本などテーマを選ぶ際には、クラスの実態を踏まえ、発達に応じた内容になるよう教職員間でしっかりと打ち合わせしていくようにしたい。2学期末にも機会をもつ予定である。

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</p> <p>幼稚園の年度目標</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 95%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」「年度当初より歯みがきの習慣が身についた」「年度当初より食べ物（特に野菜）に関心をもつようになった」「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 80%以上にする。</p> <p>○今年度末の保護者アンケートにおいて「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で「当てはまる（どちらかといえば当てはまる）」と回答する割合を 90%以上にする。</p>	

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の達成状況を測る指標	達成状況
<p>取組内容①【施策 8 施策を実現するための仕組みの推進】</p> <p>子どもの発達段階や季節に応じた遊びの内容や指導法を工夫する。</p> <p>指標：年 1 回指導要請による研究保育を実施する。 年 10 回園内研究会を行い、方法を工夫する。</p>	A
<p>取組内容②【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>体を動かす遊びの内容や指導方法を工夫する。</p> <p>指標：毎月の園だよりに体を動かす活動を掲載し、家庭への啓発を行う。 体力づくりをねらいとした活動を、遊びや生活の中で楽しみながら取り組めるようにする。</p>	A
<p>取組内容③【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>栽培活動を通して、野菜の生長に関心をもてるような活動を工夫する。</p> <p>指標：「西野田 SUN サンファーム」、園内の自然環境の充実を図り、関心をもって夏野菜や冬野菜などの栽培活動に取り組む。</p>	A
<p>取組内容④【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <p>基本的な生活習慣が身に付くように指導の工夫をする。</p> <p>指標：基本的な生活習慣（食育を含む）に関する保健指導を毎月 1 回、実施する。</p>	A
<p>取組内容⑤【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <p>発達段階や興味関心に応じて、言葉に関するいろいろな体験や遊びをする。</p> <p>指標：年 3 回以上講師による絵本の読み語りを実施する。 年 3 回以上日本や外国の文化にふれる機会をもつ。</p>	A

年度目標の達成状況や取組の達成状況の結果と分析

取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

- ・園内研究会を年10回計画し、担当を決めて実施している。5月の園外保育の前に保健の園内研究会を行い、和式トイレの使い方について子どもたちに知らせた。新しく園に来た教員の保育を見合い、アドバイスをし合うことで、保育力の向上を図った。7月にはスーパーボール転がし、9月には綱引き、10月には製作遊びの園内研究会を行い、その様子をビデオに撮り他教員がビデオを見た後に話し合いをもった。ビデオに撮ることで同じ場面を全員が共有でき、よかったことや気を付けることなどを出し合い、話し合いを深めることができた。また研究保育を行った教員も自分の保育を客観的に見ることができ、保育中に気付かなかった子どもの姿に気付いたり、自分の言葉がけについて考えたりすることができた。
- ・1学期末の保護者アンケートでは「幼稚園は発達段階や季節に応じた遊びを工夫している」という項目で高評価の回答割合は98%であった。目標は達成しているので、進捗状況をAとした。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・毎月の園だよりに家庭で楽しめるようふれあい体操を掲載し、親子で体力づくりができるようにした。1本線上を歩いてバランス感覚を養ったり、手押し相撲で腹筋や背筋を刺激したりして、月ごとにいろいろな体の部位を意識して体操を行うことで、1年を通して全身を使う体力づくりにつながるように考えた。親子でスキンシップを図りながら、家庭でも体を動かして遊ぶ機会となるように保育室帰りの時にも紹介するようにした。
- ・1学期の保育の中では、4歳児は動物ごっこの遊びで、しゃがむ、立つ、ジャンプなどの活動を取り入れた。5歳児は、サーキット遊びで全身を動かし、バランス感覚が育つ活動をした。友達と一緒に活動することで互いに刺激し合い、楽しみながら取り組むことができた。2学期前半には、運動会に向けて5歳児は綱引きで膝を曲げ中腰で綱を引いたり、リレーで繰り返して走ったり、和太鼓をたたいたりする活動を行った。4歳児はサーキットで1本橋を渡ったり、トンネルをくぐったり、マットを丸めた山を登ったりする活動を重ねた。ダンスの振り付けやサーキットの内容など、跳ぶ・くぐる・渡るなどいろいろな体の動かし方を経験できるようにした。行事以外でも発達段階に合わせた体操の内容を考えて取り組んだ。このような活動を積み重ねる中で、体幹が安定したり、バランス感覚を養ったり、体力がついたりしてきている。
- ・生活の中では、体幹が鍛えられるように、背中を椅子から離し背筋をのばして座るよう日々伝えてきたことで、自分から意識して座る姿が見られるようになってきた。活動の中で1本足で何秒立てるか挑戦したり、保育室を雑巾がけしたりして、体幹を鍛える活動を行った。次第に秒数が増えたり、雑巾がけの姿勢が安定したりしてきた。
- ・保護者には、園での運動遊びの内容を伝え、階段をできるだけ使うことや、朝ごはんを食べることなど、日々の生活が体力づくりにつながることを知らせてきた。
- ・1学期末の保護者アンケートでは「年度当初より体を動かす遊びが好きになった」という項目で高評価の回答割合は99%であった。目標は達成しているので、進捗状況をAとした。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・今年度は、5月にイチゴ、6月にジャガイモ、7月にトウモロコシを園児1人1つ収穫し、持ち帰ることができた。トウモロコシの栽培については、年度当初に5歳児が種まきをし、4歳児も一緒に生長の過程を観察した。収穫前には、5歳児がトウモロコシの間引きを経験し、どのようにすれば大きなトウモロコシになるのかということを知るきっかけとなった。7月には、5歳児がトウモロコシの収穫を経験し、4歳児はその様子を見学した。園児1人に1つのトウモロコシを持ち帰ることができるほどの豊作であった。持ち帰る際にはアレルギーなどへのお知らせの手紙を付ける配

慮も行った。

- ・5月に個人の植木鉢を利用して、親子栽培を楽しんだ。ミニトマト、ナス、ピーマンの3種の中から自分で苗を選び、保護者と一緒に世話をしながら収穫を経験することができた。自分たちで一所懸命に世話をしてきたことで、収穫することができた時の喜びは大きく、野菜が苦手であった子どもも自ら育てた野菜は食べることができたという声もあった。冬の個人鉢での栽培活動は、5歳児が水菜などの冬野菜を、4歳児はチューリップ、クロッカスの栽培をする予定である。また、冬期は水耕栽培に挑戦し、様々な栽培方法を知るきっかけにつなげていきたい。
- ・西野田 SUN サンファームの活用を深められるように話し合い、各クラスが定期的に観察に行つて自然に触れる活動に取り組むようにした。育てている作物の葉っぱの様子や、近くに生えている草花の様子に関心をもち、観察をする姿が見られた。このような経験をする機会を設けたことにより、栽培物の生長の様子だけではなく、様々な身の周りの自然に関心をもつようになった。栽培活動から虫や草花などへ関心が広がり、図鑑などで調べながら観察する姿も見られるようになった。
- ・9月初旬に畑に大根の種まきをし、大根の種が小さかったことに驚いていた。大根の生長の様子を観察し、冬に収穫することを楽しみにしている。また、10月中旬には1学期に苗植えをしたサツマイモが大きく生長し、例年よりも少し早い時期に収穫することができた。ツルを引っ張っていくと、土の中でたくさんのサツマイモがつながっていた様子に驚きながら、収穫を楽しんだ。12月には収穫したサツマイモを使って、おいもパーティーを開催する予定である。
- ・1学期末の保護者アンケートでは「年度当初より栽培活動を通して、身近な自然に親しんだり、関心をもったりするようになった」という項目で高評価の回答割合 98%であった。目標は達成しているため、進捗状況をAとした。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・毎月、保健指導を実施した。(4月：朝の生活習慣(5歳児)歯みがき(4歳児)、5月：トイレの使い方(4歳児)和式トイレの使い方(5歳児)、6月：手洗い、7月：水分補給について、9月：早寝早起き、10月：早寝早起き、11月：風邪の予防)5月、全園児にトイレの使い方の保健指導を行った。パワーポイントを使用し、4歳児にも分かりやすく、具体的に知らせるように努めた。5歳児には和式トイレの使い方を親しみやすい『カエルのポーズ』で知らせ、和式トイレの模型を作成し、遊戯室で皆が体験できるようにした。園外保育時には、昨年度より和式トイレを使用する女児が少し増えた。また、4歳児の実態からトイレの扉の扱い方が危なかったため、扉の開け閉めについてのピンポイントの指導を行った。担任からだけでなく養護教諭からも話をすることで効果的なこともあるので、連携をしていきたい。
- ・2学期は、紙芝居『よふかしおにとはやねちゃん』を読み、「夜寝る時間は9時」ということを継続して知らせるようにした。子どもたちに親しみやすいキャラクターであったこともあり、寝る時間を意識する子どもたちが増えてきた。
- ・『なつやすみ生活カレンダー』は、早寝・早起きの内容にした。前半1週間分と後半1週間分のカレンダーにして、取り組みやすくした。2学期から家庭で取り組めるように『けんこうせいかつカレンダー』を配布した。月ごとの1週間の取組を継続するようにした。カレンダーの内容は、月ごとに少しずつ変えていった。
- ・1学期末の保護者アンケートでは「年度当初より手洗い・うがいの習慣が身についた」という項目で高評価の回答割合は99%、「年度当初より食べ物に関心をもつようになった」という項目で95%、「年度当初より食べる時のマナーについて知ったり身についたりした」という項目で94%であった。目標は達成しているため、進捗状況をAとした。

取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・各クラスで、季節や行事、子どもの興味や関心、感じてほしい事柄などに応じて絵本や紙芝

居を取り入れ、いろいろなお話に興味をもてるように取組んできた。さらに、5月8日には福島図書館のボランティアの方に来ていただいて大型絵本など読んでいただいた。6月19日、11月20日には講師による絵本の会をし、絵本だけでなくエプロンシアターや素話をきかせていただき、絵本やお話への関心がさらに高まった。また、講師の言葉かけなどを教員が学ぶよい機会となった。

- ・地域の方の協力を得て、6月11日に祭りの鳴り物をきかせてもらったり、6月18日に盆踊りを教えてもらったり、9月3日の敬老の集いで和太鼓の演奏を聴いたり叩かせてもらったりした。5歳児はその経験を運動会の演技につなげ、「祭り」をテーマにおみこしや樽太鼓を使って活動し、日本の文化にふれる機会をもつことができた。
- ・6月26日には講師に来ていただき「英語で遊ぼう」の活動に取り組むことができた。昨年度の反省を生かし、子どもの実態に応じた絵本などを取り入れてもらうことで、活動を楽しむことができた。12月にも実施予定である。
- ・1学期の保護者アンケートでは「言葉に関するいろいろな遊びや活動を体験する機会が多くあった」という項目で高評価の回答割合は98%であった。目標は達成しているので、進捗状況をAとした。

次学期への改善点

取組内容①【施策8 施策を実現するための仕組みの推進】

- ・園内研究保育の反省会をもつ時間がなかなかとれず、時間がたってしまうがちであった。保育を見てすぐに反省会がもてるよう、計画的に日程を調整する。

取組内容②【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・今後も生活の中で体力向上や体幹を意識した取組ができるよう工夫し、環境を整えていく。
- ・保護者には今後も具体的に活動を知らせ、啓発方法の工夫もしていきたい。

取組内容③【施策5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】

- ・西野田 SUN サンファームの土を耕したり、雑草抜きをしたりという活動を体験する機会をつくり、野菜の生長に必要な環境についても関心をもてるようにしていきたい。
- ・季節ごとに親しむことができる自然についての見通しを立て、今後も引き続いて畑で自然に触れる経験を重ねていきたい。

取組内容④【施策7 健康や体力を保持増進する力の育成】

- ・基本的な生活習慣が身に付くように、『けんこうせいかつカレンダー』で継続的に家庭でも取り組めるような内容を考えていきたい。食事のマナーについては、家庭啓発を考えていきたい。

取組内容⑤【施策6 国際社会において生き抜く力の育成】

- ・絵本や言葉遊び、友達と思いを伝え合う場など日々の保育の中で大切にすると共に、講師に来ていただく機会も大切にしたい。
- ・今後も「英語で遊ぼう」については講師の先生と事前の打ち合わせを丁寧にして、子どもの興味関心や実態に応じた内容で取り組めるようにしていきたい。